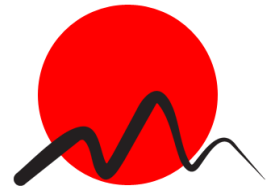


Slovenia Monthly April 2018

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2018年5月8日



～4月の主なポイント～

- 内政：** シャレツ・カムニク市長率いるLMS党等の主要政党が選挙綱領及び候補者リストを発表
社会民主党(SD)及び民主党(SDS)が支持率でLMSを逆転
- 外政：** スロベニア議長国の下、南東欧協カプロセス(SEECP)首脳・外相会合が開催
スロベニア政府、米英仏によるシリアへの軍事介入への支持を表明
- 経済：** スロベニア政府、住友ゴム子会社の新工場建設に投資インセンティブを供与
- 治安：** 内務副大臣、バルカン・ルートを通じた移民流入の再開に懸念を表明
- 社会：** ヨーロッパ柔道選手権大会でスロベニア男女が金銀受賞

政治

国政選挙特集

●主要政党の動き

【現代中央党(SMC, 与党)】

19日、6月3日の国民議会総選挙に向けて、現代中央党(SMC, 中道左派)は87名の候補者リストを確定し、2人の副党首を選出した。副党首の一人目は、ブルグレス国民議会議長が再任、もう一人は、現政府官房長のコズロヴィッチ氏。また、現在SMC議員代表を務めるリピツェル議員は、政界を離れ教授職に戻る予定。SMC所属の現職議員は、ガシヴェルチッチ・インフラ大臣及びポチヴァルシェク経済・技術開発大臣を含めほぼ全員出馬する見込み。

20日、ツェラル首相は、「SMCは、総選挙後、再度リーダー的な役割を担うと確信している」と述べ、総選挙後の連立政権への参画に向けヤンコヴィッチ(Mr Zoran Jankovic)ポジティブ・スロベニア党(PS)党首(リュブリャナ市長)と会談した旨明らかにした。同首相は、今から次期連立政権で協力可能な政党を見つけることが重要であると述べた上で、社会主義的かつリベラルなSMCとPSは思想的に近い党である述べた。

(注：5月3日、PS党首のヤンコヴィッチ・リュブリャナ市長は、「左派有権者の間での票の分断を避けるためにPSは国政選挙には候補者を擁立しない」と述

べ、ヤンシャ党首率いるSDSが政権を取ることを防ぐために、左派政党間の連携強化に努力していくとの方針を表明した。)



(写真：The Slovenia Times)

【社会民主党(SD, 与党)】

24日、SDは、議会総選挙に向けて候補者リストを発表した。同リストにはムラク労働・家族・社会問題・機会均等大臣及びカティッチ国防大臣を含まれ、そのほか現役の議員もバチッチ議員を除く全ての議員が含まれる。また、過去に大臣を務めたピカロ氏、イエリシッチ氏及びクリジャニッチ氏等も候補として擁立された。新しく出馬する著名人としては、国際法専門家のピバン氏、エアドーム製造企業「Duol」社のオ

ライ(Mr. Dusan Olaj)社長,そして,最大規模の労働組合であるZSSS(The Association of Free Trade Unions of Slovenia)の元代表デモリッチ氏の名前が挙げられている。

【年金者党(DeSUS, 与党)】

26日,エリヤヴェツDeSUS党首(外相)は,同党の選挙綱領について,経済危機の際に年金受給者が受けた不当な措置を是正し,平均8.5%の年金受給額の上昇を含む公平な年金の確保を約束すると述べた。また,年金受給者も現在の経済成長の恩恵を受けられるべきであり,社会保障費を40年間納めた場合,最低1000ユーロ受給できるべきであると述べた。なお,現在の11名の議会議員のうち7名が出馬する予定(候補者リスト上の人数等は不明)。

【民主党(SDS, 野党)】

26日,SDSは,候補者リストを発表し,全88選挙区に一人ずつ擁立することを明らかにした。女性が39名,男性49名,また11名が35歳以下の若手候補。リストには,過去に大臣を務めたことのあるチェルナツチ(Zvone Cernac)氏等の元議会議員が含まれるほか,歌手のゴタル(Alenka Gotar)氏や(SDS党幹部が共同出資者である)ニュース番組のキャスターであるフェルヤン氏(Mr Jure Ferjan),また,国境近くの南ベラ・クライナ地域において移民センターの設置に関する反対運動を主導したコツィアン(Ms Maja Kocjan)氏など。

【新スロベニア・イニシアティブ(NSi, 野党)】

21日,NSiは党大会を開催し,本年1月末に新党首として任命されたマテイ・トニン(Mr Matej Tonin)氏が,出席した党員372名のうち,345票を得て正式に党首として選出された。トニン党首は,スピーチにて,総選挙に向けて本年2月に発表された選挙綱領("NSi means it")を改めて説明し,スロベニアを生活の質ランキングで世界15位に引き上げるためには,減税や更なる自由化等を通して雇用創出及び競争率の向上を図る必要があると強調。また,同氏は,開発にフォーカスした政党とのみ連立を検討すると述べた。

●マリヤン・シャレツ・リスト(LMS)が選挙綱領及び候補者を発表【14日】

14日,シャレツ氏率いる「Marjan Sarec List」(LMS)党は党大会を開催し,国政選挙における選挙綱領を発表した。「新しい世代の時代(Time for New

Generation)」と題した同綱領では,国際社会から信頼され,経済的に発展した公平な国を目指すとして,統治制度・選挙制度等の改革,治安の確立,観光客誘致,犯罪・汚職対策の強化等を優先課題として挙げた。シャレツ党首は,「スロベニアが目指すべきは,第2のスイスでもなければ,北欧の国でもない。(DeSUSの選挙綱領に反論し)自分は,1000ユーロの年金額を約束することもない。勤勉さと忍耐(hard work and patience)によってのみ結果はもたらされる」と述べ,市民,社会と国家のために現実的なビジョンをもって取り組む旨抱負を述べた。



(写真:Novice, シャレツ党首)

経済財政分野では,公共財政の安定化及び公共調達プロセスの透明化等を優先課題として挙げ,また,スロベニアをグリーンかつニッチな観光地として広報する他,鉄道インフラの向上を目指すとして述べた。教育分野に関しては,科学・イノベーションを促進する環境を整備し,教育制度を一新し,また,スポーツを通じた国家アイデンティティの強化を目指すとしている。

さらに,社会保障における優先課題として,国レベルで統一した調達制度の導入を含む医療制度改革,若者の自立を促すプログラムや最低年金額の引き上げを掲げている。

外交に関しては,EU・NATOとのパートナーシップを外交の柱として維持するものの,LMSの外交アドバイザーであるキルン元駐米大使は,「エリヤヴェツ外務大臣の方針は迷走している」と批判した上で,外交政策の立て直しが必要だと述べた。

なお,LMSは,今次議会選挙における候補者として,以下を含む77名を擁立する予定だが,国政において主要なポストを務めた実績のある人物はいない模様。

LMSの主な候補者は以下の通り。

・カムニク市関係者：ジャウビ副市長 (Mr Jgor Zavbi), ゴルボヴィッチ補佐官 (Mr Brane Golubovic, 元PS 所属の国民議会議員), ほか市議会議員等。

・大統領選挙におけるシャレツ氏の広報担当官：Mr Matej Spehar及びMs Nika Vrhovnik。

・ほか、各地域等で活躍する人物、著名人等：ハウプトマン・元バスケットボール選手 (Mr Dusan Hauptman), ウルレップ・大手製薬企業Lek社元社長 (Mr Vojmir Urlep), トウルチェック労働監督局長官 (Ms Natasa Trcek), ルヨヴィッチ・ドムジャレ市議会議員 (Mr Edis Rujovic), アイド・ルシェ市 (スロベニア北西部マリボル市付近) 副市長 (Mr Jernej Aid) 等。

●世論調査の結果

22日、POP TV は世論調査を実施し、ヤンシャ氏率いる野党民主党 (SDS) が、支持率を前月比3%伸ばし、「Marjan Sarect List」(LMS) 党を抜いて首位に就いた旨発表。同調査によると、SDS が13.5%, LMS が13.3%, 3位に連立与党社会民主党 (SD) が8.5%と続く。なお、ツェラル首相率いる現代中央党 (SMC) は4.4%, 左派 (The Left) が4.1%, 新スロベニア・イニシアティブ (NSi) が3.5%及び年金者党が (DeSUS) が2.6%。同調査は、4月11日から19日にかけて、711名を対象にオンライン及び電話にて実施。

26日、世論調査会社の「Valicon」社は、今次総選挙に向けて実施された中で、最大規模の世論調査結果を発表したところ、支持率の順位は以下のとおり。連立与党社会民主党 (SD) が18%で首位、野党民主党 (SDS) が17.1%, 「Marjan Sarect List」(LMS) 党が11.5%, 現代中央党 (SMC) が10%と続く。なお、左派 (The Left) が8.2%, 新スロベニア・イニシアティブ (NSi) が7.2%及び年金者党が (DeSUS) が5.2%。Valicon 社は、今までの調査を分析した結果、現在議席を持つ全ての政党は再度議席を獲得すると予測し、また支持率が低下し続ける LMS も、今後のテレビ討論等でのパフォーマンスによって議会政党となる可能性は十分にあると分析。なお、同調査は、4月4日から22日にかけて、オンラインにて18歳から75歳までの2187名を対象に、性別・年齢・教育レベル及び地域の各層から無作為に抽出して実施。

【その他内政】

●ツェラル首相、ロマ人の権利保護に向けた成果を強調【7日】

「国際ロマ・デー」の前夜、東部ムルスカ・ソボタにおける記念式典に出席したツェラル首相は、スロベニアでは、独立以降、ロマ人コミュニティの統合や生活環境改善に向けた取り組みがなされてきており、社会及び文化多様性の重要な一部であると強調した。また、同首相は、具体的な取り組みの成果として、今後国民議会で審議予定の「国家ロマ・プログラム 2017-2021」及び2007年のロマ人法改正案の策定、及び、2016-17年支出されたロマ人コミュニティのためのEU基金及び国家予算総額1150万ユーロ、ノヴォメスト地域のジャブヤク・ブレジェ居住地の全面開発等につき強調した。



(写真：年金者党 (DeSUS) 公式サイト)

●ブルグレス国民議会議長、ロシア大使によるエリヤヴェツ外相に関する発言を内政干渉として批判【16日】

ザブガイェフ駐スロベニア・ロシア大使が、13日に行われた「Geoplin」社とロシアの「Gazprom」社との間の天然ガス供給に関する5年間の契約の署名式後の記者会見において「スロベニアでは国政選挙のキャンペーンが進行中であり、エリヤヴェツ外相率いる政党は、この分野において成果を見せることが出来た。同党は、複数年に亘るプログラムを有している」旨発言したのに対し、ブルグレス国民議会議長は、「特定政党に対する支持は通常ではなく、ウイーン条約に反するものである」として批判した。これに対し、同外相は、「ロシア大使の発言は何ら不適切なものではない。同大使は、単にこの政党 (DeSUS) が非常によいプログラムを有していることに気づいたのみである。仮に、ブルグレス議長が、同大使がウイーン条約に違反したと考えるのであれば、同条約に基づき処罰すべきであろう」と反論した。

●ゾルマン議員(スロベニア日本友好議員連盟会長、与党SMCを離党【19日】)

19日、ゾルマン議員(Mr Branko Zorman)が提出したスポーツ賭博に関する法案が否決されたことを受け、与党現代中央党(SMC、中道左派)所属の同議員は離党する旨を発表した。同氏は、同法案が通過しなかった理由が、反対票を投じたり、投票を棄権したSMC党员のためであるとし、また、2014年には汚職対策を掲げていたツェラル党首自身が、同法案に反対したことを批判し、同首相は他の議員に反対票を投じるよう働きかけていたと述べた。

【外政】

〈英国でのロシア人二重スパイ襲撃事件〉

●駐スロベニア米大使、スロベニアはロシア大使館員を追放すべきだったと発言【3日】

英国における元ロシア情報機関員襲撃事件を受けて、右派民主党(SDS)系週刊誌「Reporter」のインタビューにて、ハートリー駐スロベニア・米国大使は、スロベニアのロシアに対する敬愛(affection for Russia)に対し驚きを表した。同大使は、「スロベニアは英国の呼びかけに参加し、露外交官を追放すべきであった」とし、また、同事件に関し、「絶対に許容できない行為であるとのメッセージを露に対して明確に発信することが重要で、スロベニアは今からでも露外交官を追放することは可能であり、追放すべきである」と述べた。

●スロベニア政府、政府の対応を国会で擁護【5日】

国民議会外交政策委員会において、英国における元ロシア情報機関員襲撃事件に対するスロベニアの対応につき審議が行われ、野党側が、スロベニアは駐ロシア大使の召還よりも強硬な措置を取るべきであったとの立場を示す一方で、同委員会に出席したツェラル首相及びエリヤヴェツ外務大臣は、政府の対応は適切であったとの見解を改めて強調した。ツェラル首相は、直近のEUサミットでは、スロベニアはEU諸国との結束を示す必要があったが、駐ロシア大使の召還という比較的穏便な選択をしたと述べた。

〈スロベニア・クロアチア間の国境線確定問題〉

●欧州委、国境線確定問題に関する両国の専門家に対する口頭ヒアリングの実施を提案【10日】

欧州委は、スロベニア政府が、クロアチアによる国境線画定問題に関する仲裁裁判所の裁定不履行はEU条約違反であるとして欧州司法裁判所への提訴を検討している件に関し、5月2日に両国の専門家レベ

ルを招致し、口頭ヒアリングを行うことを提案した。エリヤヴェツ外相は、「欧州委による今次提案はクロアチアに対し、仲裁裁定の履行を説得するための試みであろう」との見方を示す一方で、「かならずしも欧州委がクロアチアを提訴する必要はなく、スロベニアのみでも、クロアチアに国際約束及び法の支配を遵守させる手段を有している」と述べた。また、同外相は、「欧州委、特にユンカー欧州委委員長は、本件を法的問題ではなく政治問題と認識している」として、同委員長及びプレンコビッチ・クロアチア首相が同じ政治グループに属していることは、全体的な手続に当然影響を及ぼすであろうとの見方を示した。

●エリヤヴェツ外相、口頭ヒアリングへのクロアチア出席を評価【11日】

11日、5月2日に欧州委が実施予定の両国の専門家レベルを招待したスロベニア・クロアチアの国境確定問題に関する口頭ヒアリングに、クロアチアが出席する意向を示していることに関し、エリヤヴェツ外相は、「クロアチアの反応は、仲裁裁定が存在していることを示している」として評価した。

●欧州司法裁長官、スロベニアによるクロアチア提訴に関し、異なるアプローチを提案【20日】

レナート欧州司法裁判所長官は、クロアチアとの国境問題につきスロベニア政府が同裁判所への提訴を検討していることに関し、リスボン条約第259条に基づき、加盟国によるEU条約の違反としてクロアチアを提訴する以外の異なるアプローチを取ることもあるのではないかとこの立場を示した。同長官は、EU条約に関する事項についての加盟国間の紛争解決に関する同条約273条に基づく手続を示しているが、この場合には、当事者間の特別な合意に基づき、法的手続が行われることとなる。これに関し、スロベニア政府側は、同条約273条の手続は、本件問題解決のための適切な手続か疑問であるとの立場を示している。

〈その他の外政〉

●ツェラル首相のマケドニア訪問【3日】

マケドニアを訪問したツェラル首相は、ザエフ・マケドニア首相との首脳会談後の共同記者会見にて、マケドニアのEU及びNATO加盟交渉に向けた取り組みを支援していくと表明した。ツェラル首相は、マケドニアの政治安定化を歓迎し、増加傾向にある二国間貿易に言及した上で、スロベニアはマケドニアにおける最大の投資国であることを強調した。また、今後、エ

エネルギー、環境、観光、農業・食品加工及び鉄鋼業等において事業を支援していく旨述べた。ツェラル首相の発言を受け、ザエフ首相は、マケドニアのEU及びNATO加盟交渉は地域全体の発展に資すると確信すると述べ、同取組にかかるスロベニアによる支援及び二国間協力に対し感謝の意を表した。



(写真: Delo)

●国民議会、パレスチナ国家承認に向けた審議を中止【6日】

国民議会は、野党「左派」によるパレスチナの国家承認に向けた提案の審議を手続き上の理由で中止した。同議会での審議に賛同した25人の議員のうち5名が署名を撤回したことがその理由である。また、同日朝、同議会外交政策委員会も、定足数不足から国家承認につき立場を決定することを断念した。政府法制局は、国家承認の動議は、政府から提出されるべきとの法的見解を表明しており、法律専門家らは、現政権が管理内閣であることに鑑み、国家承認に向けた如何なる努力も無駄になるとしている。

●BH外相のスロベニア訪問【11日】

エリヤヴェツ外相は、スロベニアを訪問したツルナダク・ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)外相と会談し、二国間の政治・経済分野での協力につき意見交換を行った。ツルナダク外相は、両国の関係は、良好な政治関係が如何にビジネス分野での良好な協力を繋いでいるかを示すベストな例であると述べた。これに対し、エリヤヴェツ外相は、昨年の二国間の貿易高が前年比で13%増加したことを挙げ、BHはスロベニアにとり非常に重要な経済パートナーであると述べた。また、エリヤヴェツ外相は、BHのEU加盟努力に対する支持継続を約束し、欧州委が、BHを含むEU加盟国による加盟手続の進捗状況に肯定的な評価を示すものと考えていると述べた。

●スロベニア政府、米英仏によるシリアへの軍事介入への支持を表明【14日】

ツェラル首相は、「米英仏の同盟国三カ国による軍事行動は、残されたシリア軍による潜在的な化学兵器の製造及び使用能力を破壊するための試みと理解している。かかる理由に基づき、自分は、シリア当局が、化学兵器を今後使用出来なくすることを確保することを目標とした軍事目標に対する行動を支持する」旨の声明を発出した。

また、スロベニア外務省も、「シリア当局が、今後、化学兵器を使用する可能性がなくなることを確保することを目的とした軍事目標に対する行動に支持を表明する。同盟国三カ国である米英仏による軍事行動は、化学兵器の使用を意図したシリア軍の残された施設の破壊を試みたものと理解している。」との声明を発出した。

●南東欧協力プロセス関連報道【14日～24日】

14日、スロベニアが2017年7月より議長国を務めている南東欧協力プロセス(SEECP)の総会が当地にて開催され、SEECPの将来、加盟国のEU加盟問題等につき意見交換が行われた。ブルグレス国民議会議長は、SEECPは、事務局のホスト国問題等、複数の問題を抱えているが、他の機関から加盟を認められていない国々も参加し、最も包括的な地域機関の一つであると述べた。同会合において加盟国は、EU・NATO拡大を支持する宣言を採択した。

23日、ブルドーにてSEECP外相会合が開催され、エリヤヴェツ外相は、本件プロセスは、地域における対話に貢献する重要なイニシアティブであるとして賞賛した。また、同外相は、本年6月末で終了するスロベニア議長国の優先課題は、EU拡大であるとして、今後も、加盟国のEU加盟に向けた努力を支援していくことを約束した。また、同外相は、地域の青年層が未来への展望を持っていないことに懸念を表明すると共に、加盟国は、アドリア海沿岸部を経由した新たな難民流入ルートに対処していく必要があると述べた。

24日、ブルドーで、SEECP首脳会合が開催され、SEECPの将来の方向性を中心に、首脳間での意見交換が行われた。ツェラル首相は、本件会合の中心議題は、最近、欧州委により採択された西バルカンへのEU拡大に関する報告書を踏まえての今後のEU加盟努力についてであったとして、欧州理事会がマケドニア及びアルバニアとのEU加盟交渉開始を支持したことに祝意を表明した。

スロベニアに迫る！⑥

「スロベニアで最も影響力のある100名」

25日、メディアが選出するスロベニアで最も影響力のある100名が週刊紙「Obrazi」で発表され、上位6名をスポーツ選手・関係者が占めました。多くのバスケットボール・スロベニア代表関係者がリストに入ったのは、2017年の欧州選手権でスロベニアが初優勝したことによるものと考えられます。

政治家の中ではパホル大統領が8位で最高位に入りましたが、昨年の大統領選挙で同大統領に対し善戦し、本年6月の国政選挙でも活躍が期待されるシャレツ・カムニク市長は19位、最大野党民主党(SDS)党首のヤンシャ氏は28位、ツェラル首相は35位となりました。



(ゴラン・ドラギッチ主将、写真: ClutchPoints)

同リストのトップ10は以下の通りです。

1. ゴラン・ドラギッチ(Goran Dragic), 男子バスケットボール代表主将(Miami Heat(NBA)所属)
2. ルカ・ドンチッチ(Luka Doncic), 男子バスケットボール代表(Real Madrid所属)
3. イルカ・シュトクヘッツ(Ilka Stuhec), 女子アルペンスキー選手(FISワールドカップ優勝経験者)
4. アレクサンデル・チェフェリン(Aleksander Ceferin), 欧州サッカー協会(EFA)会長
5. イゴル・ココシュコフ(Igor Kokoskov), バスケットボール代表監督
6. ヤン・オブラク(Jan Oblak), サッカー選手(Athletico Madrid所属)
7. メラニア・トランプ米大統領夫人
8. パホル大統領(Borut Pahor)
9. アナ・ロシュ(Ana Ros), 2017年世界最高女性シェフ, レストラン「Hisa Franko」のオーナーシェフ
10. マルヤン・バダゲリ(Marjan Batagelj), 「ポストイナ鍾乳洞」社長

●国民議会、外交関連2法案を採択【17日】

国民議会にて、外交関連法案が2件可決された。①国際開発・人道支援法は、2006年に制定された既存関連法を差し替えるもので、政府による国際開発協力事業の効率的な実施を可能にするもの。具体的には、複数年度にわたる柔軟な予算組み、国際開発事業への民間企業の参画、他国との共同ファイナンス等を可能にする。ロガル外務副大臣は、同法律は、貧困削減、持続可能な開発、及び地域の平和と安定に寄与するものであると説明した。②領事保護法は、本年5月1日に発効するEU指令に沿って領事関係の法律を一本化したものであり、対象国に在外公館を持たないEU市民の保護等につき明記している。

●外務省、欧州委によるマケドニア、アルバニアとのEU加盟交渉開始支持を歓迎【17日】

スロベニア外務省は、欧州委が、マケドニアとアルバニアとの間でのEU加盟交渉の開始を支持する旨を発表したことを歓迎する一方で、かかる提案は6月に開催予定のEU首脳会合において承認される必要がある旨の声明を発出した。また、外務省は、本年中に具体的な交渉開始時期を決定することで本件提案はより具体的なものとなるとの見解を示した。

●エリヤヴェツ外相とニキフォロフ・ロシア通信メディア大臣との会談【18日】

エリヤヴェツ外相は、スロベニアを訪問したニキフォロフ・ロシア通信メディア大臣と会談し、二国間の経済関係等につき意見交換を行った。両大臣は、近年、二国間の経済関係は強化されてきており、両国間の貿易高、直接投資及び観光客数も増加傾向にあるとの認識で一致した。また、両大臣が共同議長を務める二国間経済委員会は、経済のみではなく、科学や研究等の分野におけるプロジェクト実施についても支援していくべきとの考えで一致した。

スロベニアに迫る！⑦

日・スロベニア間の「芸術外交」の原動力、「アート・エンバシー(Art Embassy)」

20日、北西部、ワインの産地として有名なゴリシュカ・ブルダ地域にて、日本を含め世界12カ国のアーティストが滞在して作品を制作・展示するイベント「アート・エンバシー(Art Embassy)」の開会式が行われ、当館館員も参加しました。スロベニア人アーティストのイニシアティブで同地のワイナリーや各国大使館等の協力を得て、国際的な芸術交流を目的として2016年から毎年開かれている行事で、今年の開会式にはエリヤヴェッツ外務大臣も出席しました。



日本からは、鈴木泰人さん、岡野敦美さん、松田英さん、一森京子さん、千恵リリーさんの5名のアーティストがホテル・サンマルティン(Hotel San Martin)に滞在し、創作活動を行いました。



2017年11月には、第1回目のアート・エンバシーに参加した朝比奈賢氏が中心となり、リュブリャナ市役所の大ホールにおいて、JTI の支援、当館共催の下、外交関係樹立25周年記念行事の一環として、両国の現代アーティストによる交流展が開催されました。アート・エンバシーは、その名の通り、「芸術外交」に大きな役割を果たしてきており、今後も、同イベントに参加した日本人アーティストを通じた、日・スロベニア間の芸術分野での交流が進むことが期待されます。

●ロシアとの間の宇宙科学・デジタル経済分野での協力に関する会議【19日】

スロベニア経済開発・技術省及び複数のスロベニア・ロシア両国の関係機関の共催により、宇宙科学及びデジタル経済に関する国際会議が開催され、ロシア側よりニキフォロフ通信メディア大臣等が出席した。ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、「今次会合は、宇宙技術分野でのスロベニア企業の活動を後押しするものであり、スロベニア経済の技術面での発展にとり重要である。スロベニアには40もの宇宙技術分野で活発な企業があり、ロシア国営公社「ロスコスモス」を含め、世界において多くの重要なパートナーと協力している」と述べた。

●スロバキア大統領のスロベニア訪問【23日】

パホル大統領は、スロベニアを訪問したキスカ・スロバキア大統領と会談し、両者は、最近の政治情勢及びEUの将来につき同様な考えを有しているとして、二国間の良好な政治・経済関係を賞賛した。また、パホル大統領は、昨年二国間の貿易高は対前年比で12%増の10億ユーロに上るとして、二国間のビジネス関係は極めて良好であると述べた。キスカ大統領は、全ての戦争における戦没者の追悼記念碑(Memorial to Victim of All Wars)に外国の指導者として初めて献花したほか、パホル大統領と共に、IT、エネルギー、環境技術分野のスロバキア企業20社の参加を得て開催されたビジネス会議に出席した。

●スロベニア政府、旧リュブリャナ銀行の外貨預金に関するクロアチアとの問題につき欧州委の仲介を要請【23日】

旧ユーゴ時代の旧リュブリャナ銀行預金者の外貨預金につき、最近、クロアチアの裁判所が、リュブリャナ銀行(LB)及びその後継である新リュブリャナ銀行(NLB)に対する損害賠償の支払いを命じ、NLBが裁判所の判決に従い支払を行ったことに関し、スロ

ベニア政府は、欧州委に対し、問題解決に向けた仲介を要請した。他方、エリヤヴェツ外相は、国際法遵守におけるクロアチアのこれまでの不誠実な対応に鑑み、欧州委の仲介が成功することに楽観視していないと述べ、仮に仲介が失敗した場合には、欧州司法裁判所にクロアチアを提訴するとの考えを示した。

●パホル大統領のボスニア・ヘルツェゴビナ訪問【25～26日】

25日、「サラエボ・ビジネス・フォーラム」出席のためボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)を訪問したパホル大統領は、スピーチにおいて西バルカン諸国に対し、EUへの統合のために必要な改革の実施を要請した。また、同大統領は、欧州委は、西バルカン諸国のEUへの統合を政治的に機微なプロセスとは認識していないと述べた。更に、同大統領は、BHが長期間EUの域外に留まることは想定できないと述べる一方で、その特異な建国経緯及び政治形態に鑑み、EUは戦術的な政策アプローチが必要であると述べた。

26日、同大統領は、BH大統領評議会メンバーと会談し、難民問題が制御不可能な状況に陥る可能性があるとして警告を発し、「今後数ヶ月間で問題が急速に悪化することを防止するためには、より強力な措置を取る必要が出てくる」との考えを示した。

●パホル大統領のブルドー・ブリウニ・プロセス首脳会合出席【28日】

28日、パホル大統領は、マケドニアで開催されたブルドー・ブリウニ・プロセス首脳会合に出席し、同プロセスを立ち上げた同大統領は、同会合へのメルケル・ドイツ首相、バイデン前米国副大統領、トウスク欧州理事会議長等の世界のトップレベルの指導者の参加により、西バルカン地域への態度は変化しつつあるとして評価した。また、同大統領は、「西バルカン諸国の首脳の代わりに、ブラッセルが全ての問題を解決することは不可能である。幾つかの議題は、我々の政治的意思、知恵そして勇気のみにより解決が可能であり、徐々にではあるが、地域における楽観的な将来像が産まれつつある」と述べた。

経済

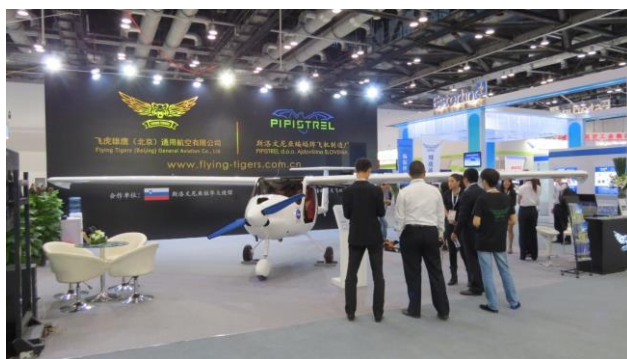
●統計局、2017年の失業率は前年比で1.4%減【11日】

スロベニア統計局は、2017年の労働力調査の結果を発表し、同年の失業率は、前年比1.4%減の6.6%を記録、2009年来最低水準となった旨明らか

にした。就労者数は、95万9000人(ILO基準)。なお、失業者の53%が女性。失業率の最も低い地域は、4.3%のコロシュカ(北部)及びポサウスカ(北東部)であり、最も高い地域はポムルスカ(北東部)であった。

●コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線建設に関する国民投票は5月13日に実施【11日】

第2鉄道路線建設法の施行に反対する市民団体代表のコヴァチッチ氏が、同法案施行の是非を問う第2回目の国民投票は、国政選挙と同日に行われるべきであるとして憲法裁判所に提訴したことに対し、同裁判所は、同氏の主張を退けた。その結果、国民投票は、選挙管理委員会が決定した通り、5月13日に実施されることとなる。



(写真: Pipistrel社)

●軽飛行機製造メーカー「ピピストレル」社、中国での工場・複合施設の建設を開始【11日】

中国の句容市(Jurong, 南京近郊)において軽飛行機製造メーカー「ピピストレル」社の新工場建設の鍬入れ式が催され、ガシュペルシッチ・インフラ大臣及びベオチャニン・アイドフシュチナ市長等が出席した。

本件投資は、135ヘクタールの敷地内に製造工場、飛行場及びアパートメントを建設するもので、投資額は総額10億ユーロ超となり、そのうち3.5億ユーロはピピストレル社が出資する。同社は、新工場において年間500機以上の超軽量飛行機を製造する他、将来的にはハイブリッド飛行機の「Panthera」を製造し、中国及び周辺11ヶ国の市場への輸出を行うために、中国国内に数カ所の新工場を立ち上げることを計画している。

●ガス会社「Geoplin」社、ロシアの「Gazprom」社との間で5年間の長期契約に署名【13日】

スロベニアの「Geoplin」社及びロシアの「Gazprom」社は、6億m³の天然ガスの輸入にかかる5年間の契約に署名した。契約額については発表されていないが、

ナパスト「Geoplin」社社長は、今回の契約署名は、ガスプロム社との間の潜在的な長期的協力実現に向けたよいサインであると述べた。

●IMF、2018年春季経済観測にてGDP成長率を4%に上方修正【17日】

IMFは、2018年春季経済観測発表し、スロベニアの経済成長率を4%に上方修正し、また、失業率は前年より減少して5.9%、インフレ率は1.7%に上昇すると予測している。

●スロベニア国鉄による新規旅客用車両の調達【17日】

スロベニア国鉄は、スイスのスタッドラ社との間で、旅客用列車26両の購入に係る1億6900万ユーロに上る契約に署名した。メス同社社長は、本件契約は、スロベニア国鉄の近代化に向けた最初のステップであるとし、来年秋にも25～26両の車両をスタッドラ社から追加購入すると述べた。また、同社長は、同社は2025年までに同社の全車両の更新を目指しており、残りの車両調達にかかる契約も2023年までに締結する予定であるとの考えを示した。

●国民議会、スロベニア国内の旅客輸送を国外の事業者にも開放【17日】

国民議会は、鉄道輸送法及び鉄道輸送の安全確保にかかる政令を改正し、スロベニア国内の旅客鉄道輸送を自由化する決定を行った。今次法改正により、スロベニア国内の旅客鉄道輸送は、スロベニア国鉄以外のEU域内の鉄道事業者にも解放されることとなる。他方、現在、スロベニア国鉄が行っている法律で義務付けられている公共輸送サービスについては引き続き維持されることとなる。

●運輸・ロジスティクス・ミッションの訪日【17日】

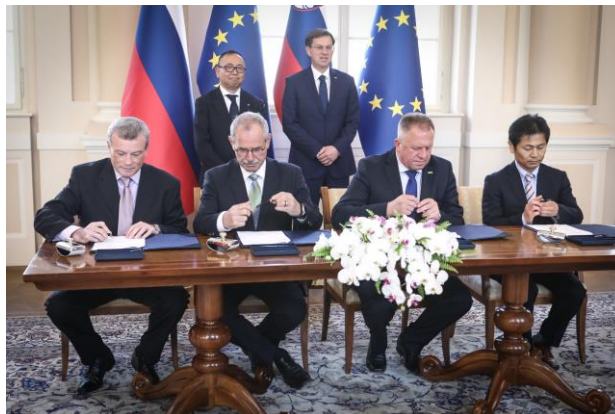
投資庁(SPIRIT)及び商工会議所運輸部門により企画された、運輸・ロジスティクス・ミッションが訪日を開始し、スロベニア及び周辺国への輸送サービス提供に関心のある日本の海運・運送会社の幹部等との間で意見交換が行われた。スヴェテク・商工会議所運輸部会長(Adria Kombi社長)は、日本側の関心は予想を上回るものであったと評価した。今次訪問において、ミッションは、コペル港を、日本から中東欧・南東欧への最短輸送ルートであるとして売り込みを行った。

●スロベニア政府、住友ゴム子会社の新工場建設に投資インセンティブを供与【18日】

スロベニア政府と住友ゴム工業子会社「ロンストロフ」社代表は、ロガテツ市における新規製造拠点設置に際する総額480万ユーロに上る投資インセンティブ供与にかかる契約に署名した。投資総額は約4800万ユーロで、新工場では180名が雇用され、2019年4月の操業開始が予定されている。

署名式典においてツェラル首相は、「自分は、貴社がスロベニアにおいて、忠実、有能且つ高度な教育を受けた社員を雇用出来ることを保証する。しかし、貴社にお願いしたい最も重要なことは、あらゆる分野において最高位の榮譽を受けている数々のスロベニアの研究機関と協力して頂くことである」と述べた。

更に、同首相は、「スロベニアは政府の戦略文書において日本を戦略的パートナーに指定しており、自分は、安川電機、ダイヘン・ヴァストロイ、NEDO、そして今回は住友ゴム工業による投資を受け、具体的な成果が出始めていることは喜ばしい。本件投資は、同市の発展に貢献していくであろう」と述べた。



(写真: Finance)

●財政監督委、財政収支の均衡目標から脱線しているとして警告【18日】

スロベニアの財政政策の監視機関である財政監督委員会は、スロベニアが欧州委に提出した2018年「安定・収れんプログラム(Stability and Convergence Programme)」は、財政収支の均衡という目標から脱線しているとして警告した。クラチュン同委員会委員長は、現在好調な経済成長を記録しているものの、2018年及び2019年に見込まれる歳出の増加は約6%と比較的高く、抑制する必要があると述べた。また、総選挙後、新政権の発足が遅延した場合、予算案の準備等にも影響を及ぼしかねないとして警告した。

発見！スロベニア

チョコレートの街、ラドウリツァ (Radovljica)

北西部、ジュリアン・アルプスの景勝地ブレッド湖に近い古都、ラドウリツァ (Radovljica) はチョコレートの街として知られており、4月20日から22日にかけて今回で第7回目となる「ラドウリツァ・チョコレート祭り (Radovljica Chocolate Festival)」が開催されました。



(写真：ラドウリツァ観光協会)

同市におけるチョコレート生産の歴史は、1922年に当時イタリアの統治下にあった西部の町ソルカン出身のアドルフ・ザウルタニク (Adolf Zavrtanik) が同市にチョコレート工場を立ち上げたことに遡ります。1948年に同氏の工場は国営化され、後にスロベニア最大の規模を誇るZito社のゴレンカ (Gorenjka) チョコレート工場となります。ゴレンカ・ブランドのチョコレートは、ヘーゼルナッツを丸ごと使った製品で知られており、旧ユーゴスラビアにおいてスロベニアの名産品の一つとなりました。



(写真：Zito 社)



(写真：ラドウリツァ観光協会)

同市近郊には、Zito社以外にも「Molinet House of Chocolate」や、「Martisan Chocolatier」といったより小規模なチョコレート生産業者もあり、様々な種類の手作りチョコレートを生産しています。



(写真：ラドウリツァ観光協会)

今回のチョコレート祭りには、同市近郊の業者のみならず、スロベニア国内及び近隣のクロアチア、イタリアからも合計47社の業者が参加し、約5万人が来場しました。来訪者は様々なチョコレート製品を試食出来るのみならず、チョコレート製造のワークショップ、音楽コンサート、スポーツイベント等も開催され、同市の観光促進に大いに貢献しています。

ラドウリツァ観光局 <https://www.radolca.si/en/chocolate-festival>

ジト社(ゴレンカ・チョコ) <http://www.gorenjka.si/en/>
「Molinet House of Chocolate」

<https://www.facebook.com/molinet.hisacokolade/>
Martisan Chocolatier <http://www.martisan.si/>

軍事・治安

●カティッチ国防大臣の訪米【7日】

7日、カティッチ国防大臣は、米国を訪問し、マティス米国防長官と会談した。両者は、国防分野での二国間協力の進捗状況を賞賛し、NATO加盟国の団結の重要性を強調すると共に、欧州及び西バルカン情勢につき意見交換を行った。カティッチ大臣は、西バルカンの安定の重要性を強調した上で、現政権は国防費減額のトレンドを停止し、スロベニアは軍の近代化計画を開始したと述べた。

●NATO軍事委員長のスロベニア訪問【11日】

スロベニアを訪問したパベルNATO軍事委員長は、ゲデル参謀総長と会談し、人的及び財政的資源の不足がスロベニア軍の戦闘準備力不足に影響しているとして、同課題を解決するためにはスロベニアの政治指導者及び軍幹部が協力する必要があると指摘した。同参謀総長は、スロベニア軍の約5%が12のNATOミッションに参加していると述べたのに対し、同軍事委員長はスロベニアの貢献を評価し、また、2月の戦闘準備評価では落第したものの、その際のオープンな参加姿勢に対して評価・称賛した。

●スロベニア、化学兵器に関する国際パートナーシップに参加【17日】

スロベニア外務省は、化学兵器使用者の責任追及を通じて将来の化学兵器使用の抑止に資することを目的とする「化学兵器使用への不処罰に対する闘いのための国際パートナーシップ」に参加する旨発表した。同パートナーシップは、本年1月23日にパリにて設立されたもので、化学兵器使用に関する情報共有や化学兵器使用者の処罰のための能力強化の支援等の取組を実施している。現在、日本を含む28か国及びEUが参加している。

●米政府、スロベニアに対する軍事協力を停止か【22日】

「POP TV」は、米国政府はこれまで25年間続いているスロベニアに対する軍事協力プログラムを停止することを検討しており、駐スロベニア米国大使館は、「POP TV」に対し、「最終的な予算は現時点で承認されていない。国際軍事教育・訓練プログラム(IME T)の実施は、特に経済発展やGDP等の複数の要素を勘案して決定される」との立場を表明した。「POP TV」はIMET停止の表向きの理由はスロベニア経済が高度な発展を遂げたためとしているが、非公式な

理由は、スロベニアがロシアに過剰に傾注しているためであり、米国政府は、IMET継続の条件として、米軍のシステムに沿って軍事訓練を受けた兵士を、ロシアの脅威に対抗するためのミッションに派遣することである旨明確に伝えてきているとしている。他方、スロベニア国防省は、既にIMETの停止の通告を受けているが、特に問題視していない模様である。

●移民の流入増加に対応するためのバルカン諸国との協議【24日】

移民の流入増加を受け、情報交換や密航組織の取締りについて協議を行うためバルカン諸国を訪問したシェフィッチ内務副大臣は、メディアの取材に対し、ギリシャから西バルカン諸国を通過してスロベニアに至る新たなバルカン移民ルートが出現しており、今年、スロベニアに流入した不法移民の数は1,000人を超え、昨年同期比で300%増加していると述べ、移民の流れの制御を確実なものとするため、スロベニアはイニシアティブを取りたいと発言した。

社会・文化・スポーツ

●国際自転車レース「イツリア・バスク・カントリー」でログリッチが総合優勝

2日から7日にかけて開催された、ロードレースの第58回イツリア・バスク・カントリー(Itzulia Basque Country 2018)にてプリモシュ・ログリッチ(Primož Roglič)選手が総合優勝を果たした。元スキージャンパーでもある28歳の同選手は、昨年ツール・ド・フランス(Tour de France)にてステージ入賞や、世界自転車選手権(World Cycling Championships)でも2位入賞を果たすなど数々の成績を残している。同選手による、今大会での総合優勝は、国際大会シリーズで初めてスロベニアが得た勝利となった。

●ヨーロッパ柔道選手権大会でスロベニア男女が金銀受賞

26日から28日の3日間、イスラエルのテルアビブで開催された、ヨーロッパ柔道選手権大会(European judo championship)にて2名のスロベニア選手が入賞した。同大会には約44か国から総勢400名の選手が会場に、ティナ・トゥルステニャク(Tina Trstenjak)選手(リオ五輪金メダリスト)は女子個人63kg級で銀メダルを獲得。アドリアン・ゴムボツ(Adrian Gomboc)選手は男子個人66kg級で金メダルを獲得し、これまでのヨーロッパ柔道選手権大会で優勝を果たした2人目のスロベニア人選手となった。

小さなワイン大国スロベニアのワイナリー紹介 第9回「マロフ(MAROF)」

マロフ・ワイナリー(MAROF)はスロベニア北東部、オーストリア及びハンガリー両国に挟まれたプレクムリエ(Prekurije)地域、ゴリチュコ(Goričko)丘陵地帯のマチュコウチ村(Mačkovci)に所在し、その歴史は1905年にハンガリー貴族のSzápáry家が狩猟小屋を築いた時まで遡ります。夏冬の寒暖の差が大きい大陸性気候帯に位置し、炭酸塩岩石と粘土質の土壌を有する同地域は、ブドウ栽培に適しています。



foto: Marjan Močivnik • www.studio-ajd.si • www.marjanmocivnik.com

(写真: MAROF)

同ワイナリーはそれぞれ異なる土壌・微小気候を有するマチュコウチ、クラマロウチ及びボドンチ地区に合計30ヘクタールのブドウ畑を所有し、白ではウェルシュリースリング、リースリング、シャルドネ、ソービニオン・ブラン、赤ではブラウフレンキッシュ(Blaufränkisch、スロベニア語名: Modra frankinja)、ツヴァイゲルト等の品種を栽培しています。同ワイナリーは、2009年に、1,200平米の規模を誇るワインセラーを建設し、最新の技術を活用しつつも伝統的な手法で多種多様なワインを製造しています。



foto: Marjan Močivnik • www.studio-ajd.si • www.marjanmocivnik.com

マロフ・ワイナリーの代表的なワインは次の通りです。

MAROF Chardonnay :アーモンドを感じる香り、乳酸菌に少しビターな味わい、ふわ〜っと香りが口の中に広がります。香りも高く、リッチなワイン。シャルドネの良いところ全部がギュ〜とつまって素敵です。

MAROF ROSE :手軽に楽しめるワインなので、ピクニックに持っていききたいワインです。

シャルドネより複雑な味わいで、サンドイッチのお供とか、多くの食材に寄り添ってくれるワインです。ツヴァイゲルトとブラウフレンキッシュのブレンドです。

MAROF RED :ポリウム満点のワインに仕上がってします。スロベニア東北地方特有の夜、気温が下がるとワインの酸味が残る、飲み疲れしないバランスの取れた優れたものです。ツヴァイゲルトとブラウフレンキッシュの程よいブレンドです。(協力:ZARIA社ソムリエ岩井氏)

以上の3種類は日本における総代理店である(株)ZARIAから購入可能です。



(写真:イカダ荘山上)

なお、伊勢志摩で半世紀以上の歴史を誇る矢牡蠣料理で有名な料理旅館「いかだ荘山上」代表の井坂泰氏は、これまでの矢牡蠣に合う最高のワインを求めてスロベニア・ワインと巡り会いました。同旅館では一般的に牡蠣と相性がよいとされているブルゴーニュのシャブリではなく、Marofのシャルドネを提供するなど、ZARIA社の協力の下、食を通じたスロベニアとの交流活動を積極的に行っています。

マロフ・ワイナリー: <https://marof.eu/en/undefined>
ZARIA(日本総代理店): <http://www.zaria-jpn.com/>
料理旅館 イカダ荘 山上: <http://ikadasou.jp/>

在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当て、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。1月号では鹿児島県を紹介致しました。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

「たびレジ」には「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●「ゴルゴ13×外務省 海外安全対策マニュアル(動画版)」

外務省では、2016年7月のダッカ襲撃テロ事件を受け、2017年3月、「ゴルゴ13の中堅・中小企業向け海外安全対策マニュアル」を政策し、外務省海外安全ホームページに掲載して参りましたが、この度、幅広い層にも安全対策に対する意識を高め、理解を深めてもらうため、同マニュアルを動画化しました。外務省海外安全ホームページ上に毎週1話ずつ、全13話が掲載される予定です。

(詳細は、http://www.anzen.mofa.go.jp/anzen_info/golgo13xgaimusho.html)

【広報文化班からのお知らせ】

●RTVスロベニアにて日本番組放映中！

・ **Fascinating Japan! Fascinating Iwate!** (夢・見る・ピノキオ) :

- 日本の様々な自然・文化・観光・食を美しい映像とともに紹介する番組

- 毎週月曜日～木曜日 19:15頃から ※開始時間は日によって異なります

- チャンネル: TV Slovenija 2

・ **Japanese Cuisine** (京・ごはんたべ) :

- 京都の地をメインに和食文化に迫るグルメ番組

- 毎週土曜日 15:00頃より ※開始時間は日によって異なります

- チャンネル: TV Slovenija 2

詳しくは <http://4d.rtvsllo.si/program> をご覧下さい。

●国際アート展示会「Art Embassy」開催中！

スロベニア北西部のワインで有名なゴリシュカ・ブルダ地域にて、日本を含め世界12カ国のアーティストが1週間滞在して制作した作品が、Vila Vipolžeにて展示中。日本からは、鈴木泰人さん、岡野敦美さん、松田英さん、一森京子さん、千恵リリーさんの5名のアーティストが参加されています。天気の良い日に、ワイナリー巡りを兼ねて、ぜひ足を運ばれてはいかがでしょうか。

-会場：Vila Vipolže (Vipolže 29, 5212 Dobrovo)

※所要時間：リュブリャナ市から車で約1時間半

-期間：4月21日から9月まで

-入場料：無料

●華道レクチャー・デモンストレーション開催

リュブリャナ市及びツェリエ市において、池坊イタリア・スタディーグループ創設者である池坊華督・目崎真弓氏を迎えて、華道に見られる日本の伝統文化についてレクチャーを行うとともに、生け花のデモンストレーションを実施いたします。

○第1回：

会場：スロベニア芸術協会内ホール (Slovenski gledališki inštitut, Mstni trg 17, Ljubljana)

日時：5月14日(月)午後6時～

○第2回：

会場：ツェネ・シュトパール生涯教育機関内会議室 (Gene Štupar - CILJ, Linhartova cesta 13, Ljubljana)

日時：5月15日(火)午後12時～

【広報文化関連】

●2019年度大使館推薦国費留学生(学部・専修・研究留学生)募集開始のお知らせ

文部科学省による2019年度の国費留学生(学部・専修・研究留学生)を募集しています。スロベニア人のご友人・お知り合いの方で日本への留学にご関心のある方がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。募集要項等の詳細は当館ホームページをご確認ください。(http://www.si.emb-japan.go.jp/MEXT_2019.html : スロベニア語)

○締切り：2018年6月12日(火)